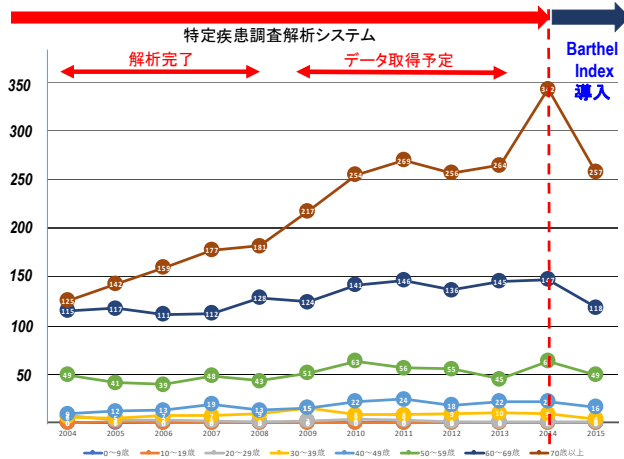


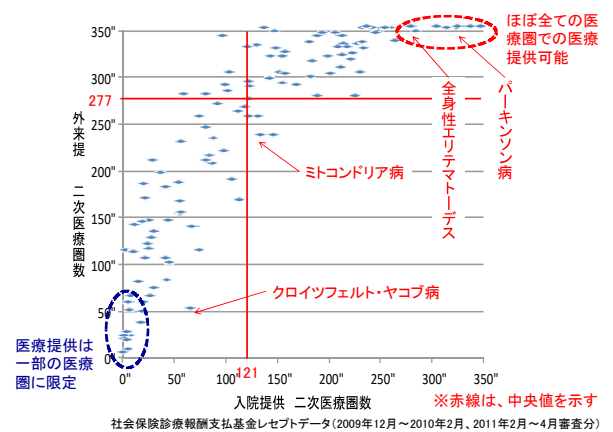
プリオン病サーベイランスデータの管理・運用の研究

研究分担者: 国立保健医療科学院 健康危機管理研究部 金谷泰宏

わが国におけるプリオン病患者の把握数の推移(厚労省衛生行政報告)



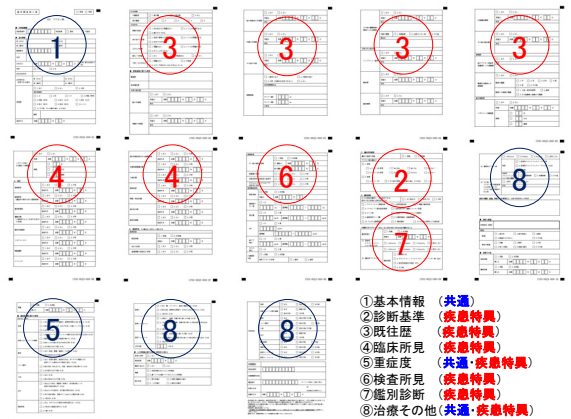
疾患別の二次医療圏における医療提供状況



難病拠点・協力病院における診療状況

	調査対象	回答	臨床調査個人票発行件数(新規)	臨床調査個人票発行件数(更新)	外来患者数	入院患者数
協力病院(難病医療協力病院)						
地域基幹病院	424	219	19	15	39	33
拠点病院(難病診療連携拠点病院・難病診療分野別拠点病院)						
新拠点病院	70	36	7	27	31	48
特定機能病院	86	57	37	21		
計	580	312	63	63	70	81

臨床調査個人票(OCR対応)の簡素化



平成25年度厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等克服研究事業(難治性疾患克服研究事業)「今後の難病対策のあり方に関する研究」

解説

1. 厚労省衛生行政報告によるプリオン病の登録件数を把握したところ、2014年度を契機に70歳以上の世代での登録数の減少が認められた。
2. 支払基金データによる解析では、CJDを入院、外来で診療が行われている二次医療圏は50に留まる傾向が示された。
3. 医療機関に対する調査により新規発症の63例のCJDの半数の症例は特定機能病院において把握されている傾向が示された。
4. 個人票のデジタル化促進に向けて、項目を必要十分なものにする必要性について提案を行った。